

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 22

「清流四万十川」に関する話題

高知県 大正町長
なかひら よしゆき
中平 義幸



大正町は「清流四万十川」の中流域にあって、豊かな自然と厚い人情に育まれた「花とロマンの里」でございます。

大正町の水を語るとき四万十川をなくして語ることはできません。また、四万十川を語るときダム問題をなくして語ることはできません。

四万十川は日本に残る最後の清流として全国的に知られております。ゆったりと雄大な流れ、河川流域の豊かな自然、そして本流にダムのない川として。

しかし、実際には家地川ダム（佐賀取水堰）があります。このダム直下の大正町では冬場の渇水期には一滴の水も流れないという状況にありました。

家地川ダムでせき止められた水は、水力発電のため別水系に分水され再び四万十川に戻ることはありません。

このようなことから大正町には、ダム設置反対、

ダム撤去の長い住民運動の歴史がございます。

現在では、2001年4月の発電水利権更新時の国土交通省四国地方整備局のお力添えによりまして、冬場の渇水期でも毎秒1.13トンの河川維持流量となり、さらに夏場には国のガイドラインの約3倍に当たります毎秒3.4トンが放流されるとともに、水利権更新期間も更新前の30年から10年に短縮をされております。

これによりまして冬場に河川が干上がるという状況は、回避をされました。

大正町は、来年3月20日に隣接する流域の3町村が合併して、名実ともに「四万十町」となります。

四万十川が「清流四万十川」として、日本の宝としていつまでもその名を後世に残していくためには、いつの日かダムのない、そして鮎が自然に遡上できる川となることが大正町民の願いです。



家地川ダム（佐賀取水堰）魚道より放流中